

すみた 議会だより



「将来の夢は何ですか？」

《有住保育園》 関連記事20p



3月議会で決まったこと ②

町の将来を見据えて(30年度予算審議) ④

我が町政を問う(8議員が一般質問) ⑧

住高生議会傍聴 ⑬

特集「乳児保育の施設整備を」 ⑱

みませんか

『空き家』改修で定住を！



△ 水回りなどの改修で快適住宅に一。移住希望者の定住に新たな取り組み

3月定例会は、2月27日から3月9日までの11日の会期で開かれ、町長施政方針演説、教育委員長教育行政演説の後8議員が登壇し、町政諸課題について一般質問を行いました。

その他、平成29年度補正予算、条例の制定、一部改正、指定管理者の更新や教育委員会委員の任命に同意、町過疎地域自立促進計画の変更、平成30年度当初予算などを審議し、全議案を原案のとおり可決しました。

財政運営

道路橋梁費なぜ減額

国交付金配分35%に

問

29年度補正予算において全体で3億7300万円と大きな減額になっているが、予算執行のあり方の所見を。

答

歳入欠陥を避けたために計上している。歳出では、どうしても年度内にできないものが出てくるので精算している。とくに道路関係は、国の予算の関係もある。住民の皆さんのために予算を確保し、執行したい思いで進めているので理解を願いたい。

問

土木費国庫補助金の道路橋梁費が9000万円余の減額になっているが。

答

国の社会資本整備総合交付金が、当初の要望に対し35%配分という水準に終わった。

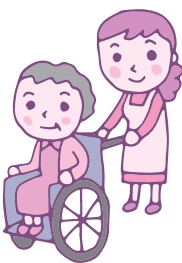
引き続き道路財源の確保、改良整備の要望を進めていく。

国保税率を改正

国民健康保険税率の見直しの要点は。

資産割を縮小

4月からの国民健康保険が広域化により県に移行することに伴い、当町の資産割が高いことから資産割を2分の1にして均等割を増額する提案。1人あたり保険料税額は、28年度比で微減の見込み。低所得者への影響を最小限にとどめる。



改正された国民健康保険税率

区分	保険税率							
	所得割額		資産割額		均等割額		平等割額	
	改正前	改正後	改正前	改正後	改正前	改正後	改正前	改正後
医療分	6.00%	6.00%	35.00%	17.50%	21,500円	22,700円	17,000円	17,000円
支援分	3.00%	3.00%	17.00%	8.50%	10,600円	11,200円	8,400円	8,400円
介護分	2.00%	2.00%	16.00%	8.00%	10,500円	11,100円	5,800円	5,800円
計	11.00%	11.00%	68.00%	34.00%	42,600円	45,000円	31,200円	31,200円

支援分：後期高齢者支援分

答

介護職員の人材確保が難しくなることから、資格取得に係る補助制度を。事業者と情報を共有しながら、相談に乗っていききたい。

問

介護職員の人材確保が難しくなること

移り住んで



△ 用水路・農道・農地の維持管理に有効な多面的機能支払交付金の活用をPR

過疎対策

1 J U ターン促進

空き家3戸を改修

平成30年度の新規事業の中で、移住・定住希望者らの住まい確保策として、新たに空き家の改修に着手。希望者に紹介する流れを描く。

過疎地域集落再編整備事業の一環で行うため、町過疎地域自立促進計画の変更議案が提出され、議決された。

問 29年度補正予算で空き家改修工事費と土地購入費が減額になっているが。

答

平成30年度において、中心地域に3戸の空き家を改修して移住定住希望者に対応する「定住促進空き家活用事業」を実施する計画。

問

地域おこし協力隊の活動状況は。

答

地域の受け入れ体制は、外部人材を地域に取り込んで活動するという慣れない部分があるが、地域の皆さんと協力しながらやっていくことになる。協力隊の皆さんは、自分の中で課題を捉え進めている。

問

保育園における乳幼児受け入れは。

答

平成30年4月から平成31年3月31日まで、生後6カ月経過後の保育サービス拡充を行うが、世田米保育園に集約する。

集落営農

多面的事業の取組みは

11集落142haに拡大

問

多面的機能支払交付金事業の取組状況は。

答

29年度は、4集落団体が加わり、11団体。面積で142haに増加。今後とも事業PRを進めていく。

問

農業機械等導入支援事業費補助金は、897万円を当初計上していたが、820万円の減額となったが。

答

補助率が高い支援策として予算化し

「行政報告」津田塾大学

との連携協定を締結

本町と津田塾大学との連携に関する包括協定を締結しました。

協定締結の目的は、教育、文化、国際化、地域活性化等の分野で相互の持つ資源やネットワークなどを活用し連携することにより、地域社会の課題解決や人材育成に寄与すること。

答

今後、本町と津田塾大学の学生との交流が進められ、地域課題解決や人材育成に寄与する取り組みが期待されます。

人事案件に同意

[教育委員再任]

菊池 恵さん

(51才) 上有住字山脈地

任期：平成30年4月1日～平成34年3月31日まで

指定管理者を指定

■高齢者生活福祉センター

- ・ 指定管理者 住田町社会福祉協議会
- ・ 指定の期間 平成30年4月1日～平成33年3月31日まで

■農林水産物直売・食材供給施設

- ・ 指定管理者 住田観光開発株式会社
- ・ 指定の期間 平成30年4月1日～平成33年3月31日まで

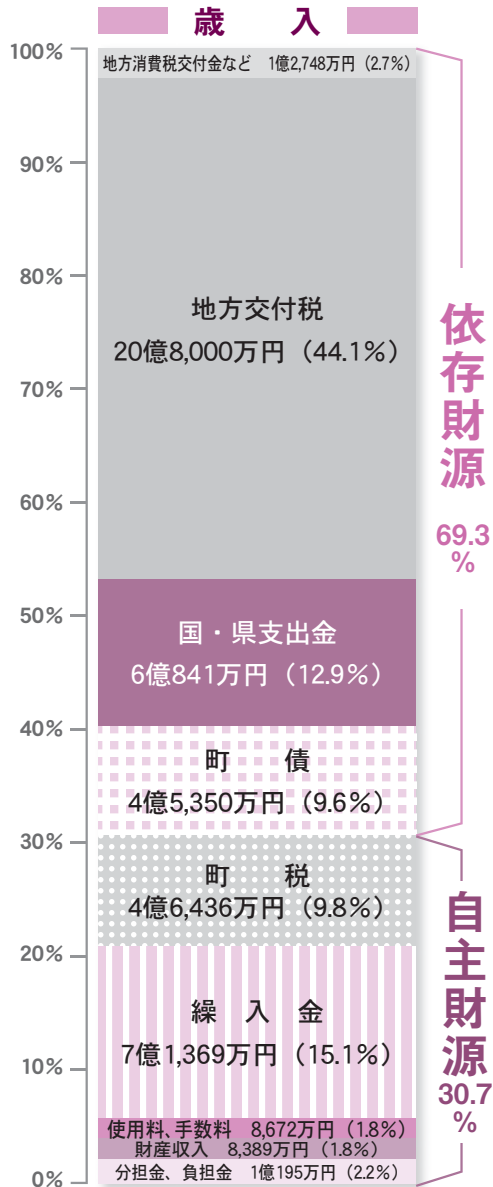
47億2000万円

平成30年度

「医・食・住」三つの要で

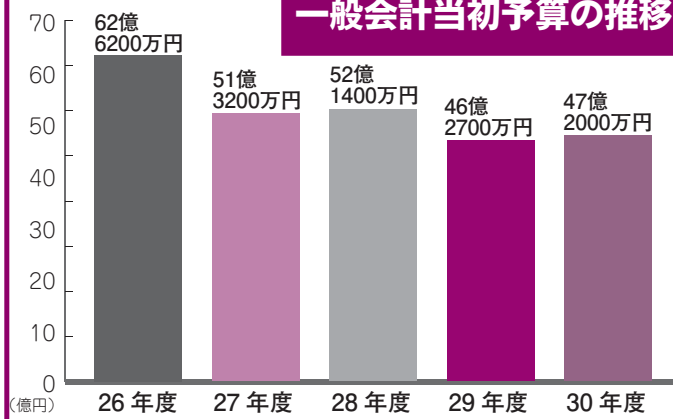
予算審査特別委員会

予算総額 67億6813万円



町事業を行うための平成30年度予算を可決しました。
一般会計は、47億2000万円で、前年度当初予算比較で9300万円（2%）の増となりました。
5特別会計は、20億4813万円で、前年度当初比で9229万円の減（4・3%減）となり、総額で67億6813万円、71万円の増となります。
選択と集中を進め、「医・食・住」施策の充実を図り、「住みたい町」の実現を掲げています。

一般会計当初予算の推移



項目	摘要
自主財源 町税	町民税・固定資産税など町民の皆さんが納めた税金
繰入金	基金（財政調整基金など）からの繰り入れ金額
使用料及び手数料	町の施設の使用料
財産収入	町有林立木売り払い代金など
分担金及び負担金	地域情報通信基盤施設や保育所運営一部負担など
依存財源 地方消費税交付金など	地方消費税交付金など
地方交付税	行政格差を無くすために国から交付されるお金
国庫・県支出金	国や県からの補助金
町債	国や銀行から借りるお金

委員長報告

公共交通体系と医療体制向上を

予算審査特別委員会
委員長 林崎幸正

人口ビジョン・総合戦略・総合計画は実質3年目になる。新町長の「医・食・住」の三つの要で、住民の声に耳を傾け、スピード感をもって進められたい。
予算審査の中で、日常生活に必要な不可欠な地域公共交通体系整備や、医療体制向上に向けた対策を望む強い意見が出された。
自分の健康は自分で守る自覚は重要である。医療や介護費などの抑制に向けた健康診断受診率向上や糖尿病対策が大きく取り上げられている。
審査の結果は、各予算全て原案通り全員賛成で可決された。
町民福祉向上、安心・安全なまちづくりを一層推進されたい。

注目! 主な新規事業



△ 改築予定の五葉山石楠花荘



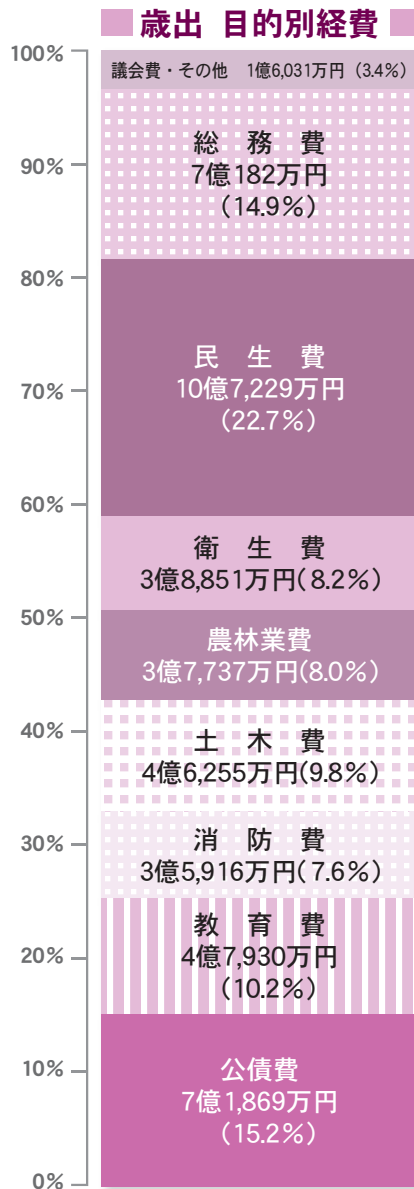
△ 最新水槽付消防ポンプ



△ 創立70年を迎える住田高校

定住促進空き家改修	1,620万円
住生活基本計画策定委託業務	300万円
コミュニティバス整備	622万円
健康ポイント事業	126万円
歯周病予防歯科検診	14万円
林地台帳整備	330万円
五葉山石楠花荘改築負担金	1,203万円
小口洞地区取水施設設置調査検討	191万円
耐震性貯水槽整備	5,240万円
住田分署水槽付消防ポンプ自動車整備	5,000万円
住田高校創立70周年記念事業補助金	30万円
有住小学校体育館外壁修繕	288万円
スクールバス整備	800万円
教育コーディネーター設置	210万円

一般会計 予算総額



特別会計 予算総額 20億4813万円

会計名	予算額
国民健康保険事業特別会計	7億1607万円
簡易水道事業特別会計	1億8989万円
下水道事業特別会計	8286万円
介護保険特別会計	9億8574万円
後期高齢者医療特別会計	7357万円

項目	摘要
議会費その他	議会費・労働費・商工費など
総務費	一般的行政経費や財産管理などの経費（地域づくり、防犯）
民生費	社会福祉のための経費（高齢者・児童福祉など）
衛生費	健康管理・予防接種・環境衛生など
農林業費	農業畜産振興・林業振興など
土木費	道路や橋梁・河川維持・住宅対策費など
消防費	消防団・消防施設費・防災対策費など
教育費	小中学校の管理や教育振興費・公民館・文化財保護費など
公債費	過疎債事業にかかる町債として借りたお金の返済金

平成30年2月末日現在人口 5,629人
町民一人あたりの行政経費（一般会計）

838,514円

一人あたりの町税額は
(町民税・固定資産税・
軽自動車税・町たばこ税など)

82,493円



積極的姿勢を評価
佐々木信一議員

「医・食・住」の要を掲げ、健康ポイント事業、歯周病予防歯科検診など、安心して暮らすための施策を展開している。少子高齢化の進む中、人口減少対策、定住化促進、消防住田分署と一体的な防災対策、住民が主体的に取り組む「小さな拠点」づくりなど、積極的な姿勢が見られる。本町の目指す協働、自立に向けた、町の実現を目指した予算である。

賛成討論

質疑

予算審査

特別委員会

ここが聞きたい

予算審査特別委員会

平成30年度 一般会計、各種特別会計は、予算審査特別委員会(委員長：林崎幸正)に付託し、審議しました。

審議は町政全般にわたり、数多くの質疑がありました。その中から、いくつかをお知らせします。

企画財政課

住民交流施設の整備は

問 住民交流拠点施設の改修などの計画は。

答 昨年、蔵改修のための調査をした。

30年度は防火壁設置と駐車場の整備を行う。トイレ改修の予定はない。

問 財政運営と基金活用は。

答 30年度から特養すみた荘の起債償還が、33年度から住田分署の起債償還も始まる。当面は公債費比率が高い状態で推移の見込み。限られた財源を有効に活用

し、バランスを図り選択と集中に努めたい。

問 住生活基本計画の目的は。

答 町の将来を見据えた住生活全般にかかる計画である。空き家

対策を含め、住民のニーズに合わせた計画とする。

問 ふるさと納税返礼品の種類や状況は。

答 返礼品は4種類から7種類に増やした。返礼品取扱額は29年度45件、59万円程である。



△改修予定の「まちや世田米駅の蔵」

保健福祉課

健康ポイントで受診率向上

問 健康増進・予防事業推進は。

答 自分の健康は自分で守る町民意識を

高め、受診率向上、重病化防止策を進める。新たに、健康ポイント事業と歯周病予防歯科検診を実施する。ポイントは商品券に変えて町内で使えるようにしたい。

問 認知症の予防対策の推進は。

答 認知症カフェやよりあいカフェで認知症地域支援推進。効果があると言われる運動や交流を通じた対策を進める。

問 国民健康保険にかかるとる県補助の保険者努力支援制度の町民周知は。

答 糖尿病などの重症化防止やデータヘルス計画の策定、医療費通知など、保険者の努力

総務課

地域防災 災害対策

問 自然災害対策の周知は。

答 全戸配布の防災マップなどの活用を図り、「自助・共助・公助」の下、互いに連携し補完しながら地域防災を強化する。



△監視の目「昭和橋付近の監視カメラ」

農政課

米政策転換への対応は

米政策転換への対応と飼料米生産拡大策は。

問 減反政策と米の直接支払交付金が廃止となる大きな転換となった。主食である米の生産資源である水田の有効活用を進める。飼料米生産拡大は、座談会などで周知を図りながら進めたい。

答 三陸ジオパークの取り組み状況と観光地のルート化を含めた今後の予定は。

問 三陸ジオパークの取り組み状況と観光地のルート化を含めた今後の予定は。

答 三陸ジオパークの一部として、滝観洞や種山、気仙川などがジオサイトとして登録。昨年、条件付きで再認定されている。町の観光地であり、ルート化も含め対応していく。

問 空き店舗活用状況とコミュニティスペース活用を含めた今後の計画は。

答 29年度の実績はなかったが、計画の

町民生活課

公共交通の維持に向けて

問 コミュニティバスの運行・運営と今後のあり方は。

答 川口上有住線が2台、八日町遠野線

周知をしながら利用を進める。中心地域活性化の一つと捉え活用支援策を考えた。

問 三陸ジオパークの取り組み状況と観光地のルート化を含めた今後の予定は。

答 三陸ジオパークの一部として、滝観洞や種山、気仙川などがジオサイトとして登録。昨年、条件付きで再認定されている。町の観光地であり、ルート化も含め対応していく。

問 三陸ジオパークの取り組み状況と観光地のルート化を含めた今後の予定は。

答 三陸ジオパークの一部として、滝観洞や種山、気仙川などがジオサイトとして登録。昨年、条件付きで再認定されている。町の観光地であり、ルート化も含め対応していく。

問 三陸ジオパークの取り組み状況と観光地のルート化を含めた今後の予定は。

答 三陸ジオパークの一部として、滝観洞や種山、気仙川などがジオサイトとして登録。昨年、条件付きで再認定されている。町の観光地であり、ルート化も含め対応していく。

が1台。住民の利便性を確保しながら、時刻表改正やアンケート調査などをし、運営している。民間路線維持やコミュニティ

予算審査特別委員会

林政課

FSC森林管理認証材を生かせ

住田町の森林管理認証材（FSC・COC）材活用は。

問 東京オリンピック会場、スタジアム外周部に杉材提供の予定である。

答 新森林管理システム対応は。

問 新森林管理システム対応は。

答 市町村主体で私有林の整備推進するものである。森林所有者の責務を明確にした。所

バス利用促進、関係機関との連携の下、本町にふ

さわしい公共交通のあり方を横断的に検討する。



△ FSC 認証材の住宅

建設課

昭和橋の架け替えは

昭和橋の事業、今後の予定は。

問 昭和橋の事業、今後の予定は。

答 県整備事務所であ

問 県整備事務所であ

答 インターネット調査中である。橋のデザインなどの検討のため、町民の昭和橋への思いを確認し資料とする。今後、委員会を立ち上げ専門家の意

問 インターネット調査中である。橋のデザインなどの検討のため、町民の昭和橋への思いを確認し資料とする。今後、委員会を立ち上げ専門家の意

答 インターネット調査中である。橋のデザインなどの検討のため、町民の昭和橋への思いを確認し資料とする。今後、委員会を立ち上げ専門家の意

教育委員会

栗木鉄山の今後は

栗木鉄山調査と今後の活用は。

問 栗木鉄山調査と今後の活用は。

答 31年度まで発掘調査、32年度で発掘報告書作成、33年度に国指定申請の予定。その後、保存管理計画、整備基本構想を作成する。

31年度まで発掘調査、32年度で発掘報告書作成、33年度に国指定申請の予定。その後、保存管理計画、整備基本構想を作成する。



△ 住田の大きな財産「栗木鉄山跡」



△ 架け替え計画のある昭和橋

見を聞き、合意形成を図りながら作業を進める。

一般質問

3月
定例会

一般質問は、議員が町長などの執行機関に対し、町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などを聞き、報告や説明を求め、疑問点を質すこと。また、議員が主義、主張を述べ提案し論戦します。

一般質問の方法は、1回目は一括して質問しますが、2回目以降は1問ずつ質問する1問1答方式を採用しています。制限時間は、答弁を含めて60分です。

3月定例会では、8人の議員から18件の一般質問が行われ、町政全般について2日間にわたり活発な議論が展開されました。

質問と答弁を要約した内容は、9～16ページでお知らせします。

なお、全文記録（議事録）は、5月下旬から役場庁舎2階の総務課と町ホームページ上で閲覧できます。

我が町政を問う

医療・介護、教育 農業振興などで論戦

ページ	質問者(登壇順)	質問項目
9	荻原 勝	①環境問題 ②町内投票率
10	瀧本 正徳	①中心地域の活性化プロジェクト ②人口減少社会の町政課題
11	林崎 幸正	①木工団地2事業体の未償還金への対応 ②町民の健康づくり
12	菅野 浩正	①医療体制 ②教育環境の整備
13	佐々木 春一	①学校教育の充実 ②介護と医療の連携 ③農業振興策
14	佐々木 信一	①農業振興 ②公共施設の維持、管理、更新
15	佐々木 初雄	①平成30年度予算編成 ②中心地域活性化策 ③生涯スポーツの振興
16	村上 薫	①町長、教育委員長の新年度施政方針 ②町の歴史・文化行政



町民の意見がどの程度届いているのだろうか…

議員のつぶやき

「環境基本計画」 どう生かす町民の意見

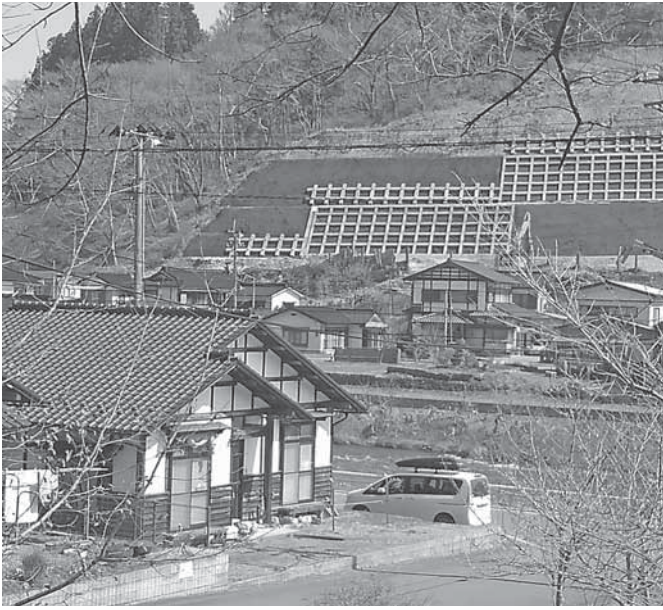
町長／景観に多様な意見

問 第4次住田町環境基本計画のパブリックコメントや審議会での意見は、どのようなものだったか。

町長 パブリックコメントでは、公園・景勝地とともに空き家にも「景観の保全」という観点があり、町の景観に対する意識の変化が伺える。また点在する観光地のルート化を考えた場合「景観の保全」が関連するとの意見があった。審議会では、計画は実行して成果をあげることが

重要。テレビ・広報などで町内の景観をPRすべき。活動と評価の仕組みづくりが大切との意見が出た。

問 「景観の保全」は第4次へどう進展したのか。
町長 第3次の環境像を継承し、第4次では、町民・事業者・町の役割のほか、一時滞在者の協力も明確にした。更に空き家を増加させない取り組み、昨年制定した「ごさつぱり条例」に基づく町づくりの推進を加えた。



△ 国道340号改良工事により変わりゆく火石付近の景観

町内投票率の評価は

10代投票率28・38%



△ 投票への意識向上のため、主権者教育の充実が求められる

問 昨年の町長選挙、衆議院選挙における町内投票率を、どう総括したのか。

選挙管理委員長 昨年7

月の町長選挙の投票率は81・60%。8年前の町長選挙の82・14%とほぼ同様の高い投票率と捉えている。

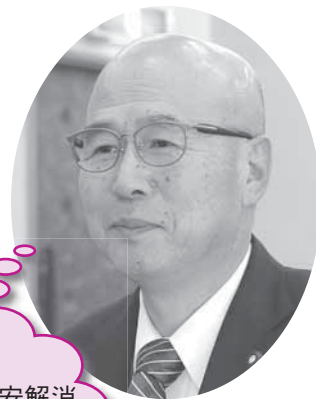
昨年10月の衆院選挙の町内投票率は65・66%。県全体では59・15%。本町は県内33市町村で5番目に高く、気仙管内では最も高かった。

問 衆議院選挙における町内10代の投票率が低調だったことをどう捉えるか。

選挙管理委員長 県全体

の10代投票率が44・11%だったのに対し町内10代は28・38%。県内で最下位だった。

平成27年の選挙権年齢引下げ後の知事・県議・町議選が無投票で、若者世代に関心が不足したこと。住民票を移動しない19歳の問題などが要因にある。



議員のつぶやき

暮らしの不安解消、
住みたい町に…

人口減少社会 縮小と集約化は

町長／施策の優先度と選択で

問 人口減少に伴う施策の縮小、集約時代にどのように向き合うか。

町長 厳しくなる財政状況を踏まえ、施策の重要度と優先度を見極める。手法を検討しながら集中して取り組み、事業成果を見出す。

問 通院や介護など、先行き不安の声を聞く。住民の不安解消は為政者の第一の責務であるが、今後の展望は。

町長 町民と一体となつ



△施策の縮小・集約時代に向き合う町役場

た協働の取り組みが肝要である。スタートした小さな拠点づくり事業を進め、課題や困りごとの解

問 決方法などを提案しつつ地域づくりを進める。

療費や介護費などの社会保障費の抑制を図るべき。

町長 近隣自治体に、温水プールなどが整備されている。広域的な有効活用も必要と捉える。

問 簡易水道・下水道事業が公営企業会計へとあるが、利用者への影響は。

町長 移行目的は、サービスを持続的に提供するため。将来負担の増減や影響は未確定状態である。今後、検討と試行を進め、32年度本実施の予定。

花の森公園事業の進展は 財政状況を踏まえて



△花の森公園整備計画のある「世田米の山並み」

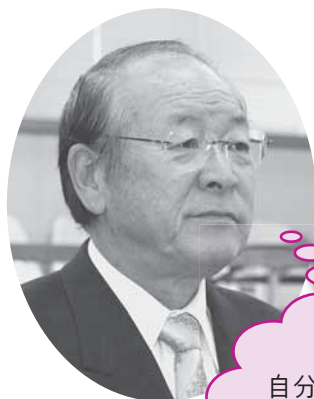
問 自然広場の整備としての「花の森公園・気仙川親水スペース」事業の検討状況は。

町長 花の森公園整備計画は、整備箇所の土壌分析や植栽樹などの調査・計画策定が必要である。町事業の優先度や財政状況を踏まえ判断したい。

気仙川親水スペースは住民の意見を聞き計画に反映させる予定。県へ整備要望をする。

問 中心地域活性化プロジェクトの評価と今後の展望は。

町長 構想は平成23年度に策定し、期間を31年度までとした。「暮らしの豊かさ実感・集い交流する賑わい・歴史景観を未来に伝えるまちづくり」とし、検討と協議を重ね、29事業を展開中である。今後、住民理解と協力を得つつ協働の地域づくりを進める。



議員のつぶやき

自分の健康は自分で守りたい

どう進む 木工事業体調停

町長／早期和解を目指す



△一体となった経営が期待される木工3事業体

問 木工団地2事業体の未償還金などへの調停申し立ての状況はどうなっているのか。

町長 町の顧問弁護士に依頼して準備を進め、11月下旬簡易裁判所に調停の申し立てをした。その後、裁判所から両事業体並びに連帯保証人、相続人に対し調停日呼出し状が送付され、第1回目の調停は1月中旬に簡易裁

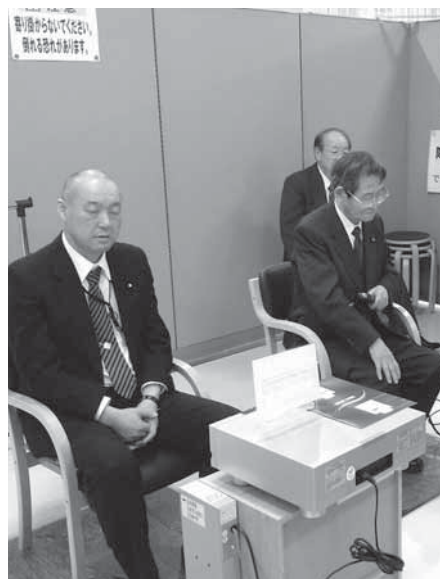
判所で行われた。

問 今後の調停をどのように進めて行くのか。

町長 調停は、申し立ての事業者の代表者、連帯保証人が調停員から個別に聞き取りが行われる。早期に和解をするには、双方の歩み寄りが大事であり、和解する前に機会を捉え議員と協議し、町民にも理解を求め進めて行きたい。

高電位治療で医療費削減を

糖尿病対策が最優先課題



△戸町に設置している高電位治療器を体験

問 町民の健康づくり、体質改善や予防医学、予防医療に効果があるといわれる高電位治療器についてどのように考えているか。

町長 町民の健康づくり、位治療器を役場や各地区公民館などに設置する考えはないか。

町長 町では糖尿病対策を保健事業の最優先課題と捉え、重病化予防に視

町長 高電位治療器は、厚生労働省が認可している効果として、頭痛、肩こり、不眠症、慢性便秘の症状を和らげる効果がある。現在のところ、正式に予防医学への効果は認められてはいない。

問 町民の健康づくりや医療費削減のため、高電

位治療器を設置するのは難しい。



議員のつぶやき

具体的な情報発信が必要と思う

新たな医療体制の構築を図れ

町長／保険・医療・介護の連携で

住高の魅力づくりを コーディネーターを配置



△住高の魅力化には卒業生の支援もかかせない

問 安心して生活できる医療体制充実に向けた医師確保の進捗状況は。

町長 一昨年、一旦医師は確保していたが、経営母体が確保できなかった。町出身医師などを訪問し、医師確保の依頼に意見交換を行ったが、町に新たに開業する医師の紹介も難しいという現状にあった。意見交換では、住田地域診療センターを核とした地域医療の推進に助言をいただいた。

問 「保健・医療・福祉・介護の関係機関が連携しながら新たな社会資源の創出を含めた医療体制の構築」は、具体的にどの

う取り組むのか。
町長 一般社団法人未来かなえ機構の協力を得ながら、「保健・医療・介護連携構築検討会」を立

ち上げ、医療を補充する機能としてどのようなものが必要かを情報収集しながら検討している。

問 空き家を利用した診療所的なものを開設しては。

保健福祉課長 今のところ訪問看護を基本に考えて検討を始めている。全国的に中山間地域の医療が不足している。特色あるサービス展開を検討したいと考えている。

問 「住田高校が選択肢となり得るような魅力づくりに向けて取り組む」とは具体的にどのような施策をもって進めるのか。

教育委員長 具体的な支援策を平成30年度から新たに配置する教育コーディネーターを中心に、住田高校と相談しながら早期に構築したいと考えている。

問 教育コーディネーターの役割は。

教育長 住田高校のすばらしいさを広く理解していただくために、どういった施策を打ち出したらいいのか調査、研究あるいは調整役を果たしてもらおうと思っている。

問 住田高校の存在感を多くの町民に知っていただく情報発信を今後どう進めるか。

教育長 一人ひとりに寄り添った教育、先生と生徒との距離が近いこと、他にはないすばらしさを発信したい。



△医療と介護の連携が重要になっている



介護保険料の負担増は
サイフに痛い。
国補助率を
戻してくれれば…

議員のつぶやき

第7期介護保険料 基準額は

町長／介護サービスの伸びで 月額6300円に

住田町の新たな介護保険料
(平成30年度～平成32年度)

区分	年額保険料
(1) 第1段階	37,800円
(2) 第2段階	56,700円
(3) 第3段階	56,700円
(4) 第4段階	68,000円
(5) 第5段階	75,600円
(6) 第6段階	90,700円
(7) 第7段階	98,200円
(8) 第8段階	113,400円
(9) 第9段階	128,500円

問 第7期老人保健福祉計画・介護保険事業計画が示されたが、介護保険料の基準額設定は。

町長 通所サービスや施設の短期入所サービスの利用が伸び、訪問看護サービスを見込む。介護保険料の基準額を月額6300円、年額7万5600円と設定した。

問 介護保険料の基準額は、高齢者・在宅介護世帯に大きな負担となるが。

保健福祉課長 介護サービス利用の伸びが見込まれ、引き上げざるを得なかった。

問 介護サービスにこえる施設整備計画は。

町長 訪問看護ステーションを検討。高齢者生活福祉センターアールスは計画的に改修、設備更新。

問 高齢者世帯数は742世帯、全世帯の3分の1を占め、ひとり暮らし世帯は441世帯。支援を充実すべきだが。

町長 1人暮らし高齢者の見守りに緊急通報装置設置。在宅介護家族には介護用品給付、家族介護者手当支給等、支援を継続していく。

問 介護人材確保・処遇改善の対応を。

町長 町内事業所と連携し、町ができることに対応していく。

我が町政を問う

佐々木春一 議員

問 町内の子ども貧困実態と子どもに寄り添った教育の実践を。

教育委員長 要保護、準要保護の児童生徒は、33名を認定。経済的な理由により就学が困難な児童生徒の適正な支援に努め、教育の機会均等を図る。

問 学校給食費の無料化で負担軽減を。

教育委員長 現時点では保護者には食材料費のみを負担していただく。

問 文科省の研究開発事業「地域創造学」の対応は。

教育委員長 小中学校、高校の5校が共同によって、地域づくりを創造。心豊かな人材の育成を目指し、地域ぐるみの教育実践に取り組む。

問 住田高校の志願者数は定員の半数。対策と課題は。

教育長 これまでの魅力づくりの支援策に併せ、進学や就職の希望が叶えられように住田高校と連携を強め、中学校訪問時には具体策を示し町全体で盛り上がりを図りたい。

子どもに寄り添った教育を 地域ぐるみで人材育成



△ 町独自の人材育成教育が本格化する「地域創造学」。町民交流が図られる



議員のつぶやき

シカの被害がもっと減ってほしいなあ

野菜振興で一億円目指せ

町長／作付け拡大に支援

問 県では、平成30年度野菜振興に向け、販売額1億円規模の野菜産地づくりを後押しする。当町でも野菜栽培で収益を確保する産地の形成に取り組むべきではないか。

町長 特定の作物における産地化は難しいが、野菜の生産により農業経営を進め、農家や団体などに対し、国、県事業の活用を進め、野菜などの作付け拡大の支援に取り組み、収益を確保していきたい。

問 町内で、イノシシが昨年2頭捕獲された。今後、イノシシによる農作物への被害増加も見込まれる。鳥獣対策の強化を図るべき。

町長 シカ、カモシカ、ハクビシンなど、防護網や電気牧柵等の対策を進めてきた。近年、ニホンザルの被害報告も多く寄せられる。鳥獣被害対策



△春野菜の苗出荷も最盛期

の研修会が開催され、イノシシにも対応した物に変更し、効果的な設置を進めていく。

問 食産業の振興では、安全・安心な農作物や加工品の供給を進めるとしているが、農業の振興では安全・安心農業については取り上げていない。今後どう進めるのか。

町長 安全・安心な農産物の生産、供給、健康維持に大きくかわることから食産業の項目で述べ

学校施設の維持・管理は定期点検で安全確保

たもの。農業振興においても今までどおり生産拡大

大、普及拡大を図る。



△適切な維持管理に努めている学校施設（世田米中学校）

問 町内の学校関係施設は、昭和40年〜50年代に建設のものが多く。その維持、管理、更新をどのように行っていくのか。

教育委員長 関係施設の経過年数は、有住中学校校舎46年、同中学校体育館45年、有住小学校体育館36年、同小学校プール43年、世田米中学校校舎及び体育館34年となっている。学校関係施設は、建築基準法に基づき定期点検を3年ごとに実施し、指摘事項を受け計画

的に改善を図り、適切な維持管理に努めている。**問** 町道は169路線で、いまだに未舗装や、改良など整備されない路線がある。今後の整備計画は。

町長 毎年2路線程度を整備し、路面補修は、1から2路線を年次計画で進めている。未整備の路線は、緊急度、利用頻度、通行の安全確保の観点から優先度を決め計画的に維持管理、改良整備を進めている。



今年の冬は雪が多かった。水不足を心配しなくていいかなあ…

議員のつぶやき

民間企業経営を生かした 町政に期待

町長／交流人口拡大と定住促進

我が町政を問う

佐々木 初雄 議員



△これからの地域医療を守るため「保健医療介護連携構築検討会」を立ちあげる

問 民間企業出身者町長ということ、町民は、どういう施策が出るか、初の予算編成に大いに期待している。「医・食・住」の3つで推進するとしているが。

町長 医は、地域医療を守るため、「保健・医療・介護連携構築検討会」を立ち上げ検討する。

食は、食いくプロジェクトによる地元産食材の活用、遊休農地を活用した耕畜連携による飼料栽培を支援する。

住は、今後二カ年で住生活基本計画を策定する。

空き家の利活用を促進し、定住を促進する。

問 若者が希望を持てる農業振興策は。

町長 担い手となる農業者を育成し、集落の中心的経営体を確保することで農地を有効活用し、効率的な農業を展開する。

問 次世代につながる林業振興策は。

町長 地域材、町産材、流通システムの充実強化のため、林業の核となる木工団地2事業体の再建、経営安定化を推進する。林業の担い手不足や獣害対策など検討し実施する。

問 世田米まち家群の歴史的、伝統的な景観を生かした町づくりをどう進め、地域の歴史的建造物、寺院などの周遊コースを生かす観光が必要と考えるが。

町長 発展させた形で次世代へ引き継ぐため、世田米まち歩きガイドと連携し、景観づくり会議を進める。住民交流拠点施設や中心地域に存在する歴史的建物や寺院などの周遊コースを作り、周囲の景観にマッチした看

観光に生かす公園整備を

周辺コースの情報発信で



△歴史的建造物、寺院などの周遊コースとして期待される浄福寺「親鸞聖人像」

板を作成する。町並みや周辺の情報発信により、交流人口の拡大と中心地域の活性化を図る。

問 教育行政演述で本町の特色ある生涯スポーツ「クップ」のさらなる普及拡大に努めるとしている。クップの常設コートが必要だが。

教育長 運動公園のテニスコートに、テニス以外のクップやゲートボールなど、汎用性を目指した施設の整備を進めたい。



議員のつぶやき

産業施策の成否が町の浮沈を左右する。力を入れてほしい

新年度

重要施策は何か

町長／医・食・住に取り組み

問 神田町長は、就任から7ヶ月を迎え、初めての予算編成を行った。改めて重要施策を伺う。

町長 暮らしの要である医・食・住の施策に取り組む。

問 重要施策3分野の具体的な内容は何か。

町長 医療は、新たな体制づくりを模索。未来かなえ機構の協力のもと、保健・医療・介護連携構築検討会を立ち上げた。食は、遊休農地活用した



△大学院生による旧下小校舎、中上仮設住宅を活用した提案は、超高齢化社会の町住宅政策に大いに参考となる

耕畜連携による飼料栽培をモデル的に実施する。住宅政策は、平成30、31年度の2カ年で住生活

問 基本計画を策定する。I-L-C北上山地実現を見据えた各課、教育委員会での取り組みが急務。

町長 I-L-C誘致での気仙2市での商工団体、民間事業者などの行動が始まっていくと認識。町のI-L-C誘致に係る施策を引き続き推進していく。

問 過疎地における新たな高齢者住宅の在り方を考える上で、東大大学院生の提案をどう生かす考えか。

町長 これから策定する住生活基本計画を進める上で参考になるものとして捉えている。

偉人・賢人から学びを地域創造学などで工夫



△住田の先覚者を学ぶことが郷土理解と郷土愛につながる

問 現在の住田町を創り上げてきた偉人・賢人に關する施策が不足している。その顕彰と学ぶ機会、業績を現在にどう生かしていく考えか。

教育委員長 偉人・賢人を学ぶ機会は、小・中学校学習指導要領道徳教育で「先人たちの足跡を学び、郷土愛や国への感謝などを醸成する」ことが盛り込まれている。今後、各学校での道徳や総合的な学習時間、地域創

造学などの教育課程の中で工夫をしていく。

問 一般町民への学ぶ機会の提供は。

教育委員長 生涯学習の分野で、町民講座や地区公民館生涯学習講座、自治公民館連携講座などを活用し、機会の提供をしていきたい。

問 顕彰をどうするか。

教育委員長 先人の業績や生き方を発信することは重要。民俗資料館の活用を考えたい。

身近な課題に理解

住田高校2年生が議会傍聴



△ 真剣な表情で質問要旨に目を通しながら論戦に耳を傾ける生徒たち

県立住田高校の2年生32人は、2月27日、町議会3月定例会の一般質問を議場で傍聴しました。選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられ、高校3年生も投票可能となりました。

議会傍聴は18歳を前にした主権者教育の一環として、昨年から2年生を対象に実施しています。初めての議場での論戦を傍聴した感想を寄せていただきました。

政治に関心を

紺野 涼 君

町の問題が沢山あり、解決のため真剣に取り組んでいてすごいと思っただ。これからは政治に関心を持っていきたい。
大股、小股は、おじいちゃんやおばあちゃんが多い。歩いて近い所に店を作って欲しいと思う。

住田高校の

存続を

水野 莉緒さん

住田町の問題を真剣に考えてくれていたことが分かった。住みやすい町になることが期待でき、とても貴重な時間だった。若者が増えて賑やかな町になること、住田高校の存続を望みたい。

医療・

介護対策を

伊藤 優花さん

独り暮らしの高齢者が増加している。医療、介護の対策をしつかりお願いしたい。
住田高校、医療、健康づくり、人口減少など様々議論されていた。これからの選挙に生かしたい。

投票に行きたい

佐藤 智恵さん

10代の投票が少ないことが出されていた。18歳で選挙権が持てたら、投票に行きたい。さらに住みやすい町にして欲しい。温水プールは必要ないと思う。

どうする

人口減少

佐藤 龍晟 君

普段は聞くことができない住田町の現状を知ることができて良かった。人口減少などこれからの町づくりをどうするのか期待したい。

ちゃんと議題に

水野 紗香さん

自分達が普段言っていることも議題に挙げられていたので、ちゃんと聞いてくれていたんだなあと思った。
買い物など移動手段が限られるので、電話で来てくれるようなタクシーがあれば良い。

一般質問その後 どうなりました

あの提言

一般質問は、議員に与えられた重要な権限の一つですが、ここでは、一般質問のその後「どうなりました あの提言」として、過去の一般質問や議案審議などが町政にどう反映されているのかお知らせします。

掲載内容は、平成18年以降の質問から議会広報編集常任委員会で1項目を選び、その後の状況などを追跡しました。

特集

町と、議会と、町民は
⑥2

質問

乳児保育の 施設整備を

乳児保育サービスに応える保育園の施設整備が望まれているが。

答弁

世田米保育園を 改修

平成29年度に世田米保育園の増築や乳児保育に必要な施設の改修工事を実施する。

その後

これからが
大事

生後8週の 受け入れ目指す

施設整備は完了し、生後6ヶ月経過後の受け入れを平成30年度より開始。段階的に乳児保育サービスを拡充し、将来的には、生後8週経過後の受け入れを目指す。



△保育サービスの充実に向け施設も整備されている保育園

ILC誘致を促進

気仙地区議会議員協議会

気仙地区2市1町の議会議員で構成する気仙地区議会議員協議会では、平成30年2月14日、「国際リニアコライダー（ILC）誘致推進議員連盟」を設立しました。ILCの北上山地への誘致を実現させ、持続・発展する地域を創造。関係機関団体と連携し、国への要望、研修を行っていくこととしました。



△「ILC」北上山地への誘致実現を目指す議員連盟を発足

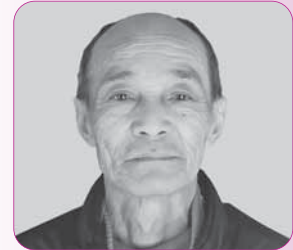
追跡



私の意見を聞いて!

乳児サービス 充実に感謝 泉 勤 さん

(世田米字窪田)



9歳・7歳・0歳の孫がいます。上の二人は3歳時入園、二番目は保育料が無料でした。感謝しています。8カ月になる下の孫は母親の育児休業が終わる7月に入園予定です。「三人目は未満児でも保育料が無料」は大変助かります。新乳児施設は「床がやわらかい」らしいので、6月の保育説明が楽しみです。「生後8カ月→6カ月→8週」という乳児サービスの充実は良いことだと思います。ただ、小さくなるほどマンツーマンになり人件費もかかるのでは。

子育てに寄りそう 町づくりを 佐々木 杏菜 さん

(上有住山脈地)



本町の子育て支援は他の地域に比べて大変充実していると感じています。保育料の負担の軽減、医療費の助成などお金のかかる子育て中の家庭には大変有り難い制度だと思えます。また、乳幼児保育の受け入れ開始時期の拡大や、土曜日の全日保育を実現するなど、ますます子育て環境は充実してきていると思います。妊婦さんが安心して出産を迎えられるよう、新たに子育てガイドブックを配布するなど、きめ細やかな支援も嬉しいです。今後、子育てに寄りそう町づくりを期待します。

傍聴に

来てけらっせん!!

次回の定例会は6月12日(予定)から
開会は10時です。

詳しくは議会事務局へ ☎ 46-3754 (直通)
E-mail gikai@town.sumita.iwate.jp



世田米字川向

徳山 勝一さん

私も ひとつ 甘口 辛口

78



世田米字世田米駅

村松 純子さん

「野菜やキノコ」採りが楽しみ

●今活動していることは
定年を機に夫婦で東京から移住しました。

頂きながら、是非ともチャレンジしていきたいです。

趣味で海釣りや、気仙川での釣りをしています。近くに畑を借りて野菜も作っています。

●議会や町に望むことは
日本全国移住者ブームですが、これからも、移住希望者を若い人に限らずに、友達や話し相手ができる、居心地の良い町であって欲しいです。

●気になっていることは
今、山菜採りやキノコ採りにとても興味があります。どなたかに教えてください。

●議会や町に望むことは
日本全国移住者ブームですが、これからも、移住希望者を若い人に限らずに、友達や話し相手ができる、居心地の良い町であって欲しいです。

身近な問題に目を向けて

●気になっていることは

になります。降り積もった雪かきは、道路脇に寄せざるを得ず、歩道を歩く人はもちろん車が走行するにも大変です。

●議会や町に望むことは
歩道のデコボコは、健康な人でも特に高齢者には、つまずき転倒の原因

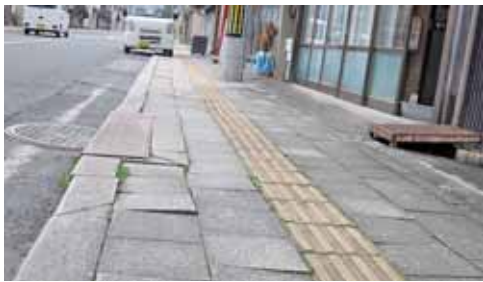
●議会や町に望むことは
歩道のデコボコは、健康な人でも特に高齢者には、つまずき転倒の原因

●議会や町に望むことは
歩道のデコボコは、健康な人でも特に高齢者には、つまずき転倒の原因

●議会や町に望むことは
歩道のデコボコは、健康な人でも特に高齢者には、つまずき転倒の原因



△移住者を歓迎する山と川と町営住宅



△歩道のデコボコ解消も住民の願い

表紙の写真 有住保育園



4月18日、有住保育園で行われたお誕生会の様子です。

この日の主役、4月生まれの子供たちにインタビューするのは、年長さんになったばかりのちびっこインタビュアーです。

将来の夢や好きな食べ物、好きなお友達の名前など、多彩な質問で、会を盛り上げました。

あとがき

▽3月9日議会最終日、3月としては記録的な降水量の報道もあり、避難準備、避難勧告情報と落ち着かない一日でした。

が可決されました。「医・食・住」を基本とした共生のまちづくり。限られた財源での住み続けたい町が実感できるよう、施策の実現と財政運営に向け議論したところです。
(菅野 浩正)

発行責任者

議長 菊池 孝

委員長 佐々木春一

副委員長 瀧本 正徳

委員 菅野 浩正

委員 佐々木信一
委員 佐々木初雄
委員 荻原 勝

広報編集常任委員会



すみた
議会だよりNo. 161

平成30年4月27日発行

発行/住田町議会
編集/広報編集常任委員会

〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向88-1
TEL 0192(46)3754(直通) 内線511 FAX0192(46)2018
http://www.town.sumita.iwate.jp